

# 国際学院新聞

第60号

(編集発行) 国際学院  
学校法人 国際学院

〒330-8548  
さいたま市大宮区吉敷町2-5  
TEL 048 (641) 7468  
FAX 048 (641) 7432  
インターネットホームページアドレス  
<http://www.kgef.ac.jp/>

## 主なニュース

- 論説、KGブランドの確立に向けて、授業見学会 ……2面
- 幼児絵画展・味彩コンテスト開催、実習報告 ……3面
- IFW クラブ活動報告、芸術観賞会、検定試験 ……4面
- 台湾の高校生が来校、スリランカ料理講習会、合宿 ……5面
- 体育大会・体育祭、研修旅行、五峯祭 ……6面
- 校友会活動、生徒会活動 ……7面
- 卒業生メッセージ・近況報告、ベストブック ……8面

## フランス料理講習会開く

### 講師にM・O・Fのカバレロ先生

今年度のフランス料理講習会が、7月8日に実施された。

講師はジェラルド・ピエール・カバレロ先生。先生は1993年に、M・O・F（フランス国家最優秀職人章）を受賞したフランスでもトップクラスの調理技術の持ち主である。

短大健康栄養学科調理製菓専攻の学生45名、高校調理師専攻の生徒85名、そのほか短大の卒業生やパレスホテル大宮の料理長などが受講した。

デモンストレーションでは、一つの皿の中に、基本的な技術、独創的な盛り付けのアイデアなど、さまざまな経験が盛り込まれていて、参加者はその一つひとつの調理技術や巧みな話



の料理の中には柚子など日本のおもてなし文化が使用されており、自国以外の食材についても精通していることを見せたい。

料理の世界で頂点を極めた先生の料理を間近に見ることは、料理を学んでいく学生にとって、調理する楽しさや料理の無限の可能性を感じられるものであり、その意味でも充実した講習会となった。

幕末から明治にかけて活躍した漢学者・中島撫山は、明治2年、現在の久喜市に居を移し、私塾「幸魂教舎

## 照 敦

開塾するなど地域の教育に尽力する。その孫が中島敦で、幼少期を同市で過ごし、撫山と共に市民の誇りと称えられている。▼文才に恵まれた中島敦は、東京大学卒業後、教員の傍ら小説を書き始めた。漢文調の格調高い文体は森鴎外の再来・第二の芥川龍之介と評される。▼没後、親交深い深田久弥が遺作に題名を付け発表したり全集の編纂が行われたりしたが、何となくとも、国語教科書に山月記が多く掲載されたこと

# IFWを日本で初めて開催

## 7カ国から49人が来日

### 日本文化体験しつつ国際交流



インターナショナルフレンドシップウィーク（IFW）を国際学院中学校高等学校がホスト校となり10月29日～11月5日の間で開催

し、7カ国から8校49人の生徒や教員が来日した。IFWとは、ユネスコスクールが海外交流を深める機会を提供し、グローバルな視野で物事を考えることができる能力や、主体性やリーダー性を育成することを目的とした研修活動で、本校は2012年よりこの活動に参加している。

これまでIFWはヨーロッパ・アジアの諸地域で開催されたが、日本での開催はなく、本校が初となる。参加国は、デンマーク、スウェーデン、イタリア、マレーシア、インド、香港で、カナダ

のバンクーバーアイランド大学からBarbara Leslie教授が視察のために訪れ、日本を含め8カ国の生徒や教員が国際交流を行う絶好の機会となった。

外国の生徒や教員は代々木にある国立オリンピック青少年総合センターと伊奈町にある埼玉県民活動総合センターに宿泊し、本校大宮キャンパス、浅草・川越などで、日本文化に触れながら様々な国際交流を行った。

主な内容は、10月30日に浅草周辺散策及び雷おこしづくりの体験、31日には会場を本校伊奈キャンパスに移し、ウェルカムセレモニー

すべてのプログラムに共通することであるが、IFWは生徒同士の国際交流が最大の目標である。そのため、どの国の教員もあまり指示を行わず、温かく見守ることにしている。その結果、生徒は、自分たちでコミュニケーションをとりながら、様々な課題を乗り越えていくことで友情を深め、成長していくことになった。

IFWを終え、担当した

本校ESD推進室の島田哲弥主任は、「このような盛大な行事を無事に行うことが出来たのは、IFW運営委員をはじめとする本校生徒の活躍はもちろん、上智大学短期大学の学生や先生方、ホストファミリーの皆様などの協力のおかげです。心から感謝申し上げます」と語っていた。

国際学院は本年12月に学院創立54周年を迎える。本学院では毎年12月に学院創立記念行事の取組みを行っており、この目的は、本学院の学生生徒と教職員の協働による創立記念行事の取り組みを通して、学院

の歴史と伝統を継承し、未来に向かって大きく成長する機会とするものである。平成29年度は12月6日、短期大学・中学校高等学校の学生生徒やその保護者、教職員などの学院関係者が参加して大宮ソニックシテ

## 学院創立記念行事を開催

### 12月6日 式典と新旧フィル公演

の歴史と伝統を継承し、未来に向かって大きく成長する機会とするものである。平成29年度は12月6日、短期大学・中学校高等学校の学生生徒やその保護者、教職員などの学院関係者が参加して大宮ソニックシテ



第一部は本学院創設者である大野誠理事長・学院長の講話と短期大学・中学校

イ大ホールで「国際学院創立記念式・公演会」として行われる。

## 目標は自立したアスリート

### 8年連続で高校総体出場

#### 陸上競技部

陸上競技部は、6月に千葉県で開催された関東大会に出場し、女子走り高跳で、高谷千秋さんが5位に、女子4×400mリレーで小笠原遥さん、新井美鈴さん、大久保清楓さん、小林梨花さんのオーダーで6位とそれぞれ入賞を果たし、全国高校総体への出場を決め、連続出場記録を8年と更新した。

また、8月からは、3年生の引退により新チームとなり、9月に行われた埼玉県新人大会において、女子400mハードルで2年の小林梨花さんが優勝、女子4×100mリレーでは、村松裕梨さん、大久保清楓さん、小笠原遥さん、小林梨花さんのオーダーで優勝を果たし、関東選抜大会への出場権を獲得した。



4×100mのメンバー

新チームとして良いスタートを切ることができたが、まだ、課題は多く残されている。主体性を大切に、それぞれの課題に気づき、自らの意志で解決していくアスリートを目指したい。

## 免許状更新講習

8月9日、「子どもの動きや表現を引き出すダンス・身体表現の指導・援助を学ぶ」をテーマに免許状更新講習を幼児保育学科の古木准教授を講師に開講した。講習内容は、新旧幼稚園教育要領についての変更点やねらい、即興的・非即興的表現の特性や身体表現活動の指導・援助法、リズムダンスの創作方法や隊形

移動などで、受講者の学修成果も評価する。講習のまとめとして、VTR収録した受講者のパフォーマンスを映像で振り返った。

受講者である現職の幼稚園教諭からは、「動きを引き出すためのイメージを出し合ったことが、子どもたちと一緒に創作したり、子どもが動きのイメージをもつて踊ったりなど、意欲的な活動につながると感じた」等の感想が寄せられた。

## 全大会で過去最高の成績

### 世界大会日本代表に姫野くん 射撃部

今年度の射撃部は、中学、高校ともに全国優勝を果たし、すべての大会において、過去最高の成績を上げることで、目標であった世界大会への出場も果たしている。主な戦績は以下のとおり。

関東大会  
チームライフル女子団体戦で関根さん、渡部さん、千葉さんが優勝、個人戦で関根さんが優勝（大会新）、男子個人戦で姫野祐輝くんが優勝（大会新）。

全国大会  
エアライフルの部で姫野くんが優勝（大会新）。  
世界大会（東アジアユース大会） 姫野君が日本代表

表選手に選出され、日本チームは銀メダル、個人戦では6位に入賞。

JOCジュニアオリンピックカップ  
エアライフルで姫野くんが準優勝、チームライフルで渡部さんが準優勝。

第72回国民体育大会  
12年連続21回目の出場。エアライフルで姫野が準優勝。

今後においても、姫野くんと千葉さんがアジアエアガン大会に出場を決めており、射撃部の一層の活躍が期待されている。

6月の関東大会の表彰状と優勝カップを手にする射撃部の面々



# 第32回 幼児絵画展を開催

## 最優秀作品賞など15の賞を選出



展示会場

102園・所から963点の応募

幼児絵画展は、本学の大学祭である「五峯祭」に合わせて、11月4日(土)、5日(日)の両日、多くの来場者を迎えて開催した。

幼児絵画展は、昭和61年に第1回を開催して以来、今年で32回の開催となった。本絵画展では、埼玉県内の幼稚園や保育所、こども園等に通っている年少児から年長児までの子ども達を対象とし、幼児教育における表現活動への興味・関心を高め、県内幼児教育の振興に寄与することを目的として開催している展覧会である。今年度は102園・所から963点の応募があり、昨年と比較して応募園数は8園・所増え、出品数も50点以上増加した。

10月11日(水)に行われた審査会では、石原進審査委員長を中心に、学外の先生方並びに学内の審査委員を合わせて15名の審査委員が、すべての作品を厳正に審査した。「こがよし」(個性が溢れているか・心がこもっているか・画面いっぱい描かれているか・喜びにあふれているか・焦点がはっきりしているか)を観点とし、とくに優れた作品には、最優秀作品賞、埼玉県知事賞、審査委員長賞をはじめとする15の賞の選出を行った。

展覧会と同日に開催された表彰式には、多くの子ども達や保護者の皆様をお迎えすることができた。子ども達は慣れない雰囲気緊張した表情も見せたが、賞状を受け取り、保護者のもとに笑顔を見せた。また、学生にとっても、多くの作品を観ることは、表現活動に興味をもち、個々の表現の違いにも気づくことができると大きな学びの機会となった。

幼児絵画展実施委員長は、「今年度も開催にあたり、ご尽力いただいた諸先生方、ご支援・ご協賛を賜りました各団体の皆様、さらには企画・運営・準備に関わった教職員・事務職員の皆様に感謝申し上げます。また、作品を出品された子ども達のさらなる活躍を期待すると共に、保護者の方々と作品を見てくださった幼稚園・保育所・こども園等の皆様方にも厚く感謝申し上げます」と謝辞を述べた。

# 一般・高校生の2部門で実施

## 第25回 味彩コンテスト

### 食生活の改善や地産地消を目的



試食審査

25回「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催された。このコンテストは、主催が国際学院埼玉短期大学及び同窓会の分科会である「あすなる会」。「けやき会」後援団体は、関東農政局から新たに参画いただき、埼玉県、さいたま市をはじめ、他7団体と、協賛団体は14団体の協力を得て実施された。

本コンテストは、食生活の改善や地産地消を目的とした料理コンテストとして、平成5年から開催されており、課題は、昨年同様、埼玉県産の鶏卵や野菜と黒豚(高校の部は国内産豚肉)を使用して、一般の部は「ごはんにあう彩り主

菜料理」、高校の部は「素材の味と彩りをいかした高校生バランス弁当」とし、一般・高校生を対象に募集した。応募者総数は465名(一般の部271名、高校の部194名)の応募であった。この中から、事前の第一次審査(レシビ審査)を経て、一般の部17名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査(調理・試食審査)に臨んだ。

学内外の審査委員によって、40分間の調理審査後、出来上がった料理の試食審査が行われ、各賞が決定された。最優秀作品の学長賞は、一般の部は、菊地知子さんの「はりねずみの彩りスコッチエッグ」が、高校の部は、佐藤涼佳さんの「豆腐でヘルシー!ネギ味

増ハンバーグ」が選ばれた。これらの作品は本学の五峯祭(11月4、5日)において、レストラン彩り亭のメニューとして来場者に販売された。

また、今回は関東農政局の鶴岡課長から、参加者向けに「食は楽しく、食選力を上げよう!」と題した講演をして頂き、大変好評であった。

味彩コンテストの様子

は、7月24日の埼玉新聞、7月30日の毎日新聞埼玉県版にも掲載され、その意義や内容を広く埼玉県内の皆様に紹介して頂いた。

これからも味彩コンテストは、地域の健康づくりや地産地消に貢献する事業として、内外からの期待を集めている。

## 教育実習を終えて 改めて保育士の仕事に誇り

幼児保育学科2年A組 小山明日香



私は9月4日から25日までの3週間、幼稚園で実習をさせていただきました。

今回の実習に取り組みにあたり、子どもと同じ目線で遊びをすることで理解を深め、実習生という立場からこそ沢山の学びを吸収するということの目標を定めて実習に臨みました。

実習期間中は主に運動会の練習があり、「やる時はやる」という子どもの一生懸命に練習に取り組む姿と指導する保育者の熱い眼差しが印象的でした。

今回の実習を終え、人と関わる保育士という仕事に改めて誇りを持ちました。

責任実習では、製作を行う上でより効率の良い手順や環境構成で行うことについて、子どもと関わること、沢山の気づきと保育の楽しさを感じることが出来ました。

今回の実習を終え、人と関わる保育士という仕事に改めて誇りを持ちました。

## 保育実習を終えて 個性引き出す工夫学ぶ

幼児保育学科2年C組 野田 碧衣



実家のある福岡県に帰省し、12日間の保育実習を無事終えることが出来ました。

今回の実習では、子どもや保育者と関わる中で、園全体で子どもを育てようとする気持ちや子ども一人ひとりの個性を引き出す工夫、子ども同士の関わりが大切さを学ぶことが出来ました。

責任実習では、指導案を作成するにあたり、製作をした際に子どもがどんな反応をするか、どんな言い方か子どもに分かりやすく伝えるかなどを考えたところが難しかったです。しかし、子どもの普段の様子を保育者に聞くことや実際に子どもと関わることで、想像しやすくなり、子どもを想像しやすくなり、子どもを大切にしたいという気持ちを改めて感じました。

今回の実習を通して、保育所で働きたいという思いが強くなりました。

課題としては、子どもと的一对一の関わりが多かったため、一人ひとりに合わせた接し方だけでなく、クラス全体をまとめられる力も身に付けていきたいと思っています。

## 児童養護施設実習を終えて マイナスイメージを払拭

幼児保育学科2年B組 川辺 聖



私は以前から児童養護施設に就職を希望しており、宿泊を含めた12日間の実習を行いました。学校や自己学習で施設の機能や実態を学んではいたものの、実際に経験してみると自分の想像とは違いました。以前は非行などマイナスイメージが強かったのですが、実際の子どもの礼儀正しく明るい子が多く、多くの子ども達と交流することができました。

施設内の雰囲気もとても良く職員の方には優しく丁寧にご指導頂きました。毎日の反省会では質問などに丁寧に詳しく答えて頂き、とても実りある実習になりました。この実習で得た学びを今後活かして、研鑽していきます。

## 校外実習を通して学んだこと 報・連・相の大切さ

健康栄養学科 食物栄養専攻2年B組 土橋 智子



私は8月21日から10日間、IMSグループ春日部中央総合病院で実習させていただきました。

調理現場では250食以上の食事を取り扱うにあたり、効率が良い調理手順や調理方法、多種多様な食数をこなす方法、徹底した衛生管理など多くのことを学びました。

患者様の食事は病状により食種や食事形態も異なるため、器に盛つたり、配膳車に入れるときは間違えないように心掛けました。

また、栄養業務ではNS T回診や褥瘡回診、糖尿病教室など管理栄養士の業務も見学させていただきました。医師や看護師など他部署の方々と連携がなくては患者様の栄養管理や食事形態、薬との関係など完璧に把握することが出来ないと感じました。

実習を通して、病院では常に患者様を第一に考えて行動すること、報告・連絡・相談を徹底し、確認すること、食種変更があっても適切に対応できること等を学びました。今回の学びを活かし、病院で患者様の役に立てる栄養士になれるよう頑張りたいと思います。

## 施設実習を通して学んだこと 内定受けさらに向上心

健康栄養学科 調理製菓専攻2年C組 諸星 拓末



私は平成25年2月1日から14日までの約2週間、ホテルメトロポリタンエドモントの宴会洋食の厨房で校外実習をさせていただきました。

私はこの実習で学んだことが多く、さらに学びたいという気持ちから、このホテルの採用試験を受け内定を頂くことができました。来年入社しても今のこの気持ちをお忘れず、常に向上心を持って仕事に取り組んでいこうと思います。

## 教育実習(栄養教諭)を通して学んだこと 子どもと良好な関係築く

健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組 金子 有彩



教育実習を通して私は、小学校における食育の実態、栄養教諭の業務内容や児童に対する関わり方を学びました。クラスの児童と関わることはもちろん、実際の給食室での調理の様子を見学して、衛生管理やアレルギーに対する配慮を学ぶことが出来ました。栄養士さんの話では、アレルギー児にもみんなと同じようにおいしい給食を食べてもらいたいという日々研究をしているという貴重なお話も伺いました。

最終日の研究授業では「適切なおやつを取り方について考えよう」という授業を行いました。1週間クラス担任のアドバイスをもらい、充実した授業を行うことができました。クラスの児童とも良好な関係が築けていたため、緊張はしましたが、楽しく授業ができました。児童からも「授業わかりやすかった」「栄養士になりたいと思ったよ」と言われてとても嬉しかったです。

この1週間得た貴重な経験を生かし、栄養教諭を目指してがんばりたいと思っています。



# 台湾の高校生らが来校

## 枋寮高級中学・恆春高級工商職業学校 祈り鶴プロジェクトで交流

6月3日(土)に埼玉県観光課の紹介により枋寮高級中学・恆春高級工商職業学校の教員2名・生徒21名の合計23名が来校した。本校は埼玉県訪日教育旅行誘致・受入推進協議会に加盟しており、毎年台湾の高校生が本校を訪れ、国際交流の一環として行われたものである。

なお、この学院新聞が発行される前日の12月5日には、台湾の高校生が本校を訪れ、日本料理を食物調理コースの生徒と共に作る企画が予定されている。

このように日本と台湾の交流が確実に継続されていることが実感できる1年になっていることはESD推進室として嬉しい限りである。

### スリランカ料理講習会

## 食を通し国際理解学習

### 日本人の味覚との違い実感

この講習会は、本校が2010年7月にユネスコスクールに加盟して2011年から「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」として日本ユネスコ協会連盟より助成を受け実施されており、2012年から毎年、公益財団法人「埼玉国際文化交流協会」にご協力をいただき、食を通して国際理解学習を行うプロジェクトである。

本年度は、7月20日(木)に講師のサスリカ・クレ先生をお迎えし、南アジアにある国、スリランカの料理を食物調理コースの生徒85名が学習した。

毎年、海外研究の事前学習として国際理解教育を推進し、世界の様々な地域の文化を学ぶために世界異文化学習会を実施している。

今年度は埼玉県国際文化交流協会設立30周年にあたり、「730万人の国際

理解プロジェクト」の記念行事として、7月18日に第2学年全員が参加した。生徒たちは、ウイグル、パラグアイ、タイ、スリランカ、モンゴル、コロンビア、インドネシア、マレーシア、香港、ペルー、韓国、ロシアの12カ国に分かれてそれぞれ学習を行った。

前半は各国について講義を受けた。それぞれの国の人口、気候、面積、人種構成などの基本的な情報や食文化、歴史、学校生活について学んだ。

後半は体験的な学習が行われ、実際に民族衣装を着たり、遊びをするなどを楽しんで学んだ。

生徒達は「他国の言語について興味をもてるようになった」「日本文化との違いがよく理解できた」と同時に、似た部分もあり大変興味深く聞くことができた。

朝から晩まで息つく暇もなく、英語の学習に取り組む、正に英語漬けの3日間となりました。

参加した生徒たちは日頃の学校の授業では、50分という慣れない時間と学習量に戸惑ったようであったが、次第にそれぞれがペースをつかみ始め学習への集中した取り組みができるようになった。

夜の英会話では話が途切れないように、それぞれが必死に単語をつないでいる姿は、確かな成長がみられ、今後の恒例行事となり、飛躍できることを確信している。



台湾の教員と生徒たち

歓迎会後には、350万匹の折り鶴をアメリカに届ける「祈り鶴プロジェクト」に両国の高校生が参加した。短い時間だったが、両国の生徒が平和(中国語では「和平」と逆になるそうである)を祈り、熱心に鶴を折る姿が印象的であった。



講師のサスリカ・クレ先生

初めて参加した1年生の生徒達は、これまで経験したことのない学習量に戸惑ったようであったが、学習にも体力が必要となることを実感できたようだ。2年生は学習に真剣に取り組むようになり、下級生に助言を行うようになった。3年生は、最上級生として、受験生として、真剣な眼差し、同じ目標を持った仲間と切磋琢磨している姿を目の当たりにし、今年も例年以上に良い進路結果を生む土台が出来たと確信している。

この講習会では、朝6時半から90分の授業を2コマ、午後4コマ、夜は自習・確認テストと、朝から晩まで息つく暇もなく、学習に取り組む。一貫部所属の生徒も増え、どの学年にも成果があった。

この講習会では、朝の散歩やランニングから始まり、午前9分2コマ、午後9分2コマ、夜は6分1コマの英会話検定が行われ、担当の教員と日本文化や日常生活の事柄について英語で説明するという授業が行われた。生徒たちは、必死にそれぞれのテーマに合わせ、各自が必至に身振り手振りを交えて、会話や説明

実際に大宮アルディージャのマネージャーをしていただいた案内で、観客席やトレーニングルーム、特別に選手の手口を近くまで見学させていただくなど、とても貴重な体験をすることができました。また、大宮アルディージャは試合だけではなく、清掃活動やイベントへの参加など、地域社会にも貢献していることを

初めて知りました。ゴールである国際学院埼玉短期大学に到着すると、先生方が拍手で迎えてくれました。私はその時、とても達成感を感じました。ここまで歩いてきてよかったなと思いました。そして、保護者の方々が作ってくれた温かい豚汁とフルーツポンチは、とてもおいしくほっとする味でした。

今回の強歩大会を通して、諦めない根気強さが身につきました。また、互いに励まし合いながら歩いたことで、さらに団結力が深まりました。今回も学んだことを活かし、次の行事にも取り組んでいきたいです。

初めて知りました。ゴールである国際学院埼玉短期大学に到着すると、先生方が拍手で迎えてくれました。私はその時、とても達成感を感じました。ここまで歩いてきてよかったなと思いました。そして、保護者の方々が作ってくれた温かい豚汁とフルーツポンチは、とてもおいしくほっとする味でした。

今回の強歩大会を通して、諦めない根気強さが身につきました。また、互いに励まし合いながら歩いたことで、さらに団結力が深まりました。今回も学んだことを活かし、次の行事にも取り組んでいきたいです。

## ◆高校夏季進学合宿

### 学年を超えて 目標へ切磋琢磨



充実した勉強合宿

夏季休業中の恒例行事である夏季進学合宿が8月21日から8月24日の3泊4日の日程で実施された。場所は国立オリンピック記念青少年総合センターで、第3学年17名、第2学年18名、第1学年20名の合計55名が

参加した。夏らしい暑さが戻った時期であったが、3泊4日の日程を全員が一生涯懸命に取り組む、充実した勉強合宿を過ごすことが出来た。

この合宿では、朝6時半のラジオ体操から始まり、午前90分の授業を2コマ、午後4コマ、夜は自習・確認テストと、朝から晩まで息つく暇もなく、学習に取り組む。一貫部所属の生徒も増え、どの学年にも成果があった。

初めて参加した1年生の生徒達は、これまで経験したことのない学習量に戸惑ったようであったが、学習にも体力が必要となることを実感できたようだ。2年生は学習に真剣に取り組むようになり、下級生に助言を行うようになった。3年生は、最上級生として、受験生として、真剣な眼差し、同じ目標を持った仲間と切磋琢磨している姿を目の当たりにし、今年も例年以上に良い進路結果を生む土台が出来たと確信している。

この合宿では、朝の散歩やランニングから始まり、午前9分2コマ、午後9分2コマ、夜は6分1コマの英会話検定が行われ、担当の教員と日本文化や日常生活の事柄について英語で説明するという授業が行われた。生徒たちは、必死にそれぞれのテーマに合わせ、各自が必至に身振り手振りを交えて、会話や説明

実際に大宮アルディージャのマネージャーをしていただいた案内で、観客席やトレーニングルーム、特別に選手の手口を近くまで見学させていただくなど、とても貴重な体験をすることができました。また、大宮アルディージャは試合だけではなく、清掃活動やイベントへの参加など、地域社会にも貢献していることを

初めて知りました。ゴールである国際学院埼玉短期大学に到着すると、先生方が拍手で迎えてくれました。私はその時、とても達成感を感じました。ここまで歩いてきてよかったなと思いました。そして、保護者の方々が作ってくれた温かい豚汁とフルーツポンチは、とてもおいしくほっとする味でした。

今回の強歩大会を通して、諦めない根気強さが身につきました。また、互いに励まし合いながら歩いたことで、さらに団結力が深まりました。今回も学んだことを活かし、次の行事にも取り組んでいきたいです。

初めて知りました。ゴールである国際学院埼玉短期大学に到着すると、先生方が拍手で迎えてくれました。私はその時、とても達成感を感じました。ここまで歩いてきてよかったなと思いました。そして、保護者の方々が作ってくれた温かい豚汁とフルーツポンチは、とてもおいしくほっとする味でした。

今回の強歩大会を通して、諦めない根気強さが身につきました。また、互いに励まし合いながら歩いたことで、さらに団結力が深まりました。今回も学んだことを活かし、次の行事にも取り組んでいきたいです。

## ◆夏季英語合宿

### 中高で互いに切磋琢磨 英語漬けでスキルアップ!

夏休みの恒例となりつつある英語合宿に、昨年度から高校一年生も加わり、7月30日から8月1日の2泊3日の日程で実施された。場所は、嵐山にある国立女性会館で、高校生一貫部生含む27名、中学生47名の合計74名が参加した。最終日には、中学一年生は、私学テスト、中学2、3年生と高校生はのびに臨んだ。

この合宿では、朝の散歩やランニングから始まり、午前9分2コマ、午後9分2コマ、夜は6分1コマの英会話検定が行われ、担当の教員と日本文化や日常生活の事柄について英語で説明するという授業が行われた。生徒たちは、必死にそれぞれのテーマに合わせ、各自が必至に身振り手振りを交えて、会話や説明

実際に大宮アルディージャのマネージャーをしていただいた案内で、観客席やトレーニングルーム、特別に選手の手口を近くまで見学させていただくなど、とても貴重な体験をすることができました。また、大宮アルディージャは試合だけではなく、清掃活動やイベントへの参加など、地域社会にも貢献していることを

初めて知りました。ゴールである国際学院埼玉短期大学に到着すると、先生方が拍手で迎えてくれました。私はその時、とても達成感を感じました。ここまで歩いてきてよかったなと思いました。そして、保護者の方々が作ってくれた温かい豚汁とフルーツポンチは、とてもおいしくほっとする味でした。



充実した勉強合宿

参加した生徒たちは日頃の学校の授業では、50分という慣れない時間と学習量に戸惑ったようであったが、次第にそれぞれがペースをつかみ始め学習への集中した取り組みができるようになった。

夜の英会話では話が途切れないように、それぞれが必死に単語をつないでいる姿は、確かな成長がみられ、今後の恒例行事となり、飛躍できることを確信している。

今回の強歩大会を通して、諦めない根気強さが身につきました。また、互いに励まし合いながら歩いたことで、さらに団結力が深まりました。今回も学んだことを活かし、次の行事にも取り組んでいきたいです。

# 特集

## 体育大会・体育祭 研修旅行 五峯祭

国際学院の3校では、体育大会(体育祭)、研修旅行(海外・国内)・修学旅行、五峯祭等の学校行事を毎年実施している。ここでは、各行事の運営等を中心と成り関わりつたりリーダー学生・生徒や担当教員から、行事の様子や改善・工夫した点、感想等を述べてもらった。

### 前年反省し競技に工夫

体育大会委員長

幼児保育学科2年A組 岩澤ひかる



### 競技レース数増加で盛り上がる



熱戦を繰り広げた綱引き(中高)

1年次は総括委員として事前準備や体育大会当日の運営に携わりましたが、当時は自分が担当する役割を果たすことで精一杯になり、周囲を見て動くことができていませんでした。今年度、自分が体育大会

### 一致団結し、フェアプレー精神で競技

中学校高等学校体育祭

中学校高等学校の体育祭は6月7日、上尾運動公園陸上競技場において開催された。今年、「Reach the top」をテーマとし、各クラスが一致団結し、フェアプレー精神で競技を行った。中学校の対抗部では、紅組が優勝を果たした。また、午後に行った演技発表においては、中学生の元気あふれるダンスに観戦していた保護者から拍手や大きな声援が送られていた。

高校生のクラス対抗総合の部では、3年B組が3年生としての意地を見せて優勝を果たした。また、3年B組は、最もまとまった応援を見せたクラスに送られる団結賞も獲得し、上級生として他の模範となる行動を見せてくれた。競技以外の面でも、今年度のテーマである研鑽のもと、準備・運営・後片付けにおいて、生徒全体が一致団結して取り組んだ体育祭であった。

### 自分の視野の狭さ実感

オーストラリア研修実行副委員長

健康栄養学科2年B組 原村 恵

オーストラリア研修では様々なことを学び、異国の文化に沢山触れることが出来ました。

ホームステイでは多くの学生が慣れない英会話に苦労しつつも、ホストファミリーの方々が分かり易い言葉で会話を繋いでくださっ

たお陰で、交流を深め充実した時間を過ごすことが出来ました。

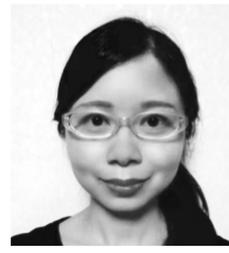
シドニー大学ではオーストラリアの食生活や栄養指

### カナダ研修

### 学び深めた有意義な研修

カナダ研修実行副委員長

幼児保育学科2年A組 三井 愛美



カナダ研修では、ホームステイやバンクーバーアイランド大学(VIU)での講義とアクティビティ、市

内観光など様々な経験をすることが出来ました。ホームステイでは1〜3人の学生がホストファミリー

と11日間を過ごしました。言語や文化の違いもあり、はじめは緊張し戸惑う

ことが多くありましたが、ホストファミリーが優しくわかりやすく話しかけてくれるので英語を聞き取ることも慣れ、自然と楽しくコミュニケーションが出来るようになりました。

VIUでは英会話について学びました。英語が得意ではない学生もいましたが講師の方がわかりやすく教えてくださり、スケートなどのアクティビティで英会話を実践することで身に付けることができました。

この研修を通して現地の方の優しさに触れながら言語や異文化について学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができました。学生一人ひとりの目標や学科に沿った学びも深めることができた、この経験を将来に役立てたいと思います。

### 五峯祭

### 昨年の反省を活かし、日々の学びを具現化

短大

健康栄養学科2年A組 小野寺莉奈



今年度の五峯祭は、天気にも恵まれ、多くのお客様を迎えることができたことに心から感謝しています。昨年

の反省を活かし、五峯祭総括を中心に「報告・連絡・

かな自然の中で、カーリングや飯盒炊爨などの体験活動を通じ自然環境に対する知識や保護活動への自主性を育み、富岡製糸場や万平ホテルなど人々が培い守ってきた歴史的背景を学ぶほかに、日々のしがらみや個人が抱える大きな問題から離れ、規律ある集団行動の中で友人や先輩、後輩と、オリエンテーリングやロッジでの宿泊等の交流を図り、自己を見つめ直す良い研修となった。

生徒たちは、様々な事情がある中、要所で教員の予想を超える成果を挙げており、その成果が今後の糧になることが期待される。

皆の意見をまとめることに不安がりましたが、副委員長をはじめ、五峯祭学生委員、学生の皆さん、そして多くの先生方のご指導・ご助言を頂きながら日々の学びを具現化できた結果だと思えます。先輩たちの力も影ながら頂いたこと感謝しています。五峯祭の成功は皆さんの協力のおかげです。本当にありがとうございました。

今年の最優秀賞には3年C組「アロマの香りドリラックスタバスソルト」が選ばれ、クラスTシャツコンテストでも最優秀賞を受賞し2冠を達成した。その他の団体においても随所に精力的な成果が見られるものであった。

### 高等学校 海外研究

### カナダの自然や文化を学ぶ

全てのコースで充実した研修



今年度も第2学年の海外研修・語学研修・国内研修が実施され、無事終了した。

海外研修コースでは、2泊3日のホームステイ、高校訪問、カナダの自然やカリーニング体験などの選択コース、バンクーバーやシアトルでの別別研修を行った。現地での文化や習慣などを学ぶ貴重な機会となった。語学研修コースは、バン

導法などの講義を聴くことが出来ました。景勝地視察では、至る所に先住民アボリジニが生活していた名残があり、彼らの文化が大切にされているのだと感じました。

このように研修で経験したことの数々がとても興味深く、オーストラリアと日本、双方の良い所を知り、今まで自分がいかに狭い視野の中で生きていたのかを実感しました。

また、旅行中は時間を守り、スムーズな行動を心掛けることができ、旅行社の方や現地の方々からも褒めの言葉をいただきました。これは、事前に何度も行った集合練習や、嵐山での研修の反省を踏まえ一人ひとりが努力した成果だと思えました。

VIUでは英会話について学びました。英語が得意ではない学生もいましたが講師の方がわかりやすく教えてくださり、スケートなどのアクティビティで英会話を実践することで身に付けることができました。

この研修を通して現地の方の優しさに触れながら言語や異文化について学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができました。学生一人ひとりの目標や学科に沿った学びも深めることができた、この経験を将来に役立てたいと思います。

### 国内研修

### 建学の精神を理解

国内研修実行委員長

幼児保育学科2年B組 松下 千夏

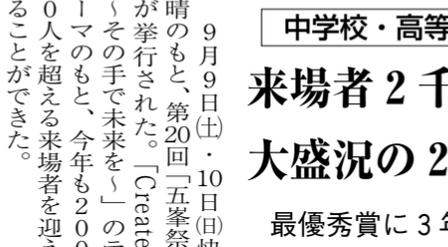
本年度の国内研修は、宮城県仙台市並びに松島を中心とした地域で実施されました。当日は天候にも恵まれ、各班も予定通りに研修を進めることができました。

事前学習では、幼児保育がテーマに沿って研修を行うことができました。研修を通して、新たな体験、発見をすることができ、これまで学んできた建学の精神の理解をさらに深めることができましたと思います。

9月9日(土)・10日(日)快晴のもと、第20回「五峯祭」が挙行された。「Create」のテーマのもと、今年も2000人を超える来場者を迎えることができた。

研修当日、各学科それぞれがテーマに沿って研修を行うことができました。研修を通して、新たな体験、発見をすることができ、これまで学んできた建学の精神の理解をさらに深めることができました。

また、五峯祭に欠かすことのできない伊奈町備前太鼓公演、保護者会からは体験コーナーやバザーに加え、一貫部保護者によるフェアトレード製品の販売が行われ、大盛況の2日間であった。



マスコットの「伊奈ローズちゃん」

**中学校・高等学校**  
**来場者 2千人超**  
**大盛況の2日間**  
**最優秀賞に3年C組**

短期大学学友会活動報告

人との繋がりが大切  
会長 稲葉美乃里

幼児保育学科2年B組



私は、昨年度の学友会の活動を通して、もっと違う活動を行いたい、去年実現できなかった活動を成し遂げたいと考え、会長に立候補しました。その際に、他の学友会メンバーの協力や後押しがあったおかげで、会長になることができました。その時、自分ひとりの力ではとても弱く、学友会を通じてこの学校をより良くしていくことは、周りの人が協力してくれるからこそできることなのだと思ってきました。その為、周りの人の信頼に応えられるよう、またそのことを忘れないようにしていくためには、もっとたくさんの人と繋がることが大切だと考えました。今年度は学生や先生方などの周りの人と関わられるようみんなで楽しめる活動を行いたいと考えています。

私は、昨年度まで国際学院短期大学で学友会の副会長としていた友人のお手伝いを行っていました。そのために活動することだと思

自ら行動し悔いのない活動を

よりよい学校生活に

副会長 細田 幸汰  
専攻科健康栄養専攻1年



具体的な活動としては、まず体育大会で学友会主催企画として、オリンピック・パラリンピックO×ゲ

私は、昨年度まで国際学院短期大学で学友会の副会長としていた友人のお手伝いを行っていました。そのために活動することだと思

ミューズ  
ウィング  
祭同窓  
会コーナ  
五会



学友会とは、当初学校のために活動することだと思

今回、私が学友会副会長になって一番考えていることは、学生生活をより良くするにはどのようなことをするべきなのか、また、学生と社会との関りの輪を広げるにはどうすればいいのか、ということを抱負として日々活動を行っています。

国際学院中学校高等学校の一大イベントである、第20回五峯祭が9月9日から10日の2日間にわたり行われました。多くの方々のご協力により、充実した最高の五峯祭を作り上げる事が出来、盛大に終える事が出来ました。



第20回五峯祭

笑いと音楽、パフォーマンスで多くの感動!

ミサンガづくり

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとする事ができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。

3年生は、創作映画を上映しました。場面ごとに撮影をしてCGを加えながら編集しました。しかし、1日目に機材トラブルが発生し、クラス全員でそれをカバーする必要が出てきたため、急ぎ2日目には映画

私には、五峯祭で「団結することの大切さ」を改めて感じました。学校生活では、団結しなければならぬ場面がたくさんあります。各学年だけではなく、中学校全体、学校全体で団結していきたいです。これからの学校行事でも協力し合ってよりよいものを作り上げていきたいです。

高等学校・中学校生徒会活動報告

反省点を今後の糧に

高校生生徒会長

3年E組 高橋健一郎



学長を囲んで(学友会役員)



大宮こども夏祭り広場

卒業まで残り少ない日々ですが、やり残したことや悔いがないように、私たちができる様々なことに取組んでいきたいです。

国際学院中学校高等学校の一大イベントである、第20回五峯祭が9月9日から10日の2日間にわたり行われました。多くの方々のご協力により、充実した最高の五峯祭を作り上げる事が出来、盛大に終える事が出来ました。

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つかりました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来なかつたことなどの反省点が挙げられました。これらの反省点を今後を生かして、来年の五峯祭は今年度より、より良いものになるように、今までつないできた伝統を引き継いでほしいです。

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つかりました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来なかつたことなどの反省点が挙げられました。これらの反省点を今後を生かして、来年の五峯祭は今年度より、より良いものになるように、今までつないできた伝統を引き継いでほしいです。

め、仕事を任せることが出来ました。特に世界地図はIFWでも使うことが出来るように五峯祭実行委員会の方に協力して頂きながら、生徒会役員としては花紙の作成や貼り付けなどを指示しながら、完成度の高いものを作ることが出来ました。

「五峯祭反省会」を通して反省点も見つかりました。3年生は、役割分担ができていなかった、1、2年生では計画的に進めることが出来なかつたことなどの反省点が挙げられました。これらの反省点を今後を生かして、来年の五峯祭は今年度より、より良いものになるように、今までつないできた伝統を引き継いでほしいです。

の最中に劇を取り入れるなど、工夫をしていました。3年目の五峯祭では、問題解決のためにクラス全員が協力して1つの目標に向かうことのできた行事となり、自分たちの成長のあとも見ることができました。中学校全体では、2号館1階のオープンスペースにある窓ガラスにスタンドガラスを制作しました。2号館ロビーは、窓が大きく、自分たちの学年の出し物もあり、なかなか作業が進みませんでした。全学年で声を掛け合い、協力して取り組みました。1枚1枚の窓に、丁寧にセロハンを貼っていき、綺麗なスタンドガラスに仕上げる事ができました。



スタンドガラス制作

団結の大切さを実感

国際学院中学校3年1組 山崎 栞奈

今年度の五峯祭は、各学年が協力し合い素晴らしいものとする事ができました。1年生は、IFWについての紹介とミサンガ・缶バッジ作りをしました。外国の特徴を模造紙に丁寧にまとめ、説明していました。

私には、五峯祭で「団結することの大切さ」を改めて感じました。学校生活では、団結しなければならぬ場面がたくさんあります。各学年だけではなく、中学校全体、学校全体で団結していきたいです。これからの学校行事でも協力し合ってよりよいものを作り上げていきたいです。

# 保育者になるために 大切な時間管理とメモの習慣

## 保育現場に生かす特技磨く 結婚後は地域社会で活躍を



「学ぶ心を大切に」と幼児保育科卒業生3姉妹

### 幼児保育学科卒業生 3姉妹からのメッセージ

右から  
平成18年度卒業：増田（旧姓：権田）敦子  
平成21年度卒業：古木（旧姓：権田）尚子  
平成22年度卒業：川上（旧姓：権田）陽子

私たちが国際学院で学んだことは、仕事をしたいく上で大切なことばかりでした。夢である保育者になるため、たくさんのカリキュラムに取り組み、日々明るい挨拶、身形を整える、丁寧な言葉遣いを心がけながら学校生活を過ごして参りました。

私たちは、幼稚園に勤めてきましたが、特に大切だと感じたことは、時間管理とメモを残すことでした。子どもたちは1日の中で遊びと学びを交互に行っています。誰でも急には次の作業に移れませんが、子どもたちがスムーズに気持ちの切り替えができるように時間にゆとりを持って行動していました。

また、子ども一人ひとりの日々の変化に気づくため、保護者や職員との連絡事項を確認するためにメモ

### 卒業生の近況報告 国際学院高等学校13期生

早稲田大学教育学部  
社会科地理歴史専修

4年 須藤 圭祐



私が母校、国際学院高等学校に在学中に学んだことは多くあるが、そのなかでも、学ぶこと、知識を得ることが楽しさを知ることができたことが一番の学びである。学ぶことよって多くのことを知ると、多くの知らないことが現れる。このことの奥深さに気づくことができたのも高校に在学中のこと

## 教職の道を目指す

卒業後1年間、浪人生活を送った。浪人時代には、諦めずに努力を続けることができれば、必ず結果は出ることを実体験することができ、そして念願であった早稲田大学教育学部に入ることができた。大学生活では、多くの様々な知識を学ぶために多くの講義を履修し、そこで興味を持った分野や専攻をしている日本現代史の書を多く読み、自らの歴史像を持つことができるようになった。

## 学び続ける姿勢忘れずに

大学卒業後は、教職の道に進んでいこうと考えている。そこで高校生活・大学生活を通じて、得られた学び続ける姿勢を忘れずに、未来の生徒に学ぶこと、知識を得ることの楽しさや学び続けることの重要性を伝えられるように努力を続けていきたい。

## ベスト ブック

### 理系を目指す学生にお勧め



『天文対話』は、ガリレオ・ガリレイがコペルニクスの地動説を解明し、その理論を一般民衆にも理解できるように、新しい科学方法論を駆使して書いた不朽の名著です。彼が旧来のスコラ学体系の様々な難関・障壁を、いかにして突破したかが如実に示された近代科学の黎明を告げる大著で、科学革命の宣言書であるとも言われています。実は私もこの『天文対話』を高校生の時、物

国際学院中学校高等学校副校長 井川 隆  
国際学院埼玉短期大学専任講師

ガリレオ・ガリレイ（著）／青木靖三（翻訳）  
『天文対話』上・下  
岩波文庫

理の先生から紹介されて知りました。ガリレオは皆さんも良

## 新しい理論を生み出した

「科学の父」ガリレオ・ガリレイ

くご存じでしょう。中世の時代、天動説が当たり前の時代が、16世紀になってコペルニクスによって、太陽が中心で地球やその他の惑星が太陽の周りを回っていると地動説

を唱えました。当時、天動説はヨーロッパ全土でキリスト教カソリックの教えでもあり、それに異を唱えることは大変な事でした。その説をガリレオが支持しました。そのため第1次宗教裁判にかけられることにもなりませんが、何とか免れました。



になりました。話の中身は、3人の対話という形で進められます。地動説を支持する「サルヴィチニ」と天動説を信ずる「シンプリチオ」、および良識的市民「サグレド」

テン語で論文を発表していましたが、あえて公用語であるイタリア語を使い、対話形式にしました。身近で親しみやすく、理解しやすい表現にしたのです。

しかし、これが決定的となり、二度目の宗教裁判で終身刑を受けること

です。3人が4日間にわたって地動説か天動説かについて論争します。第1日目は、アリストテレス流の天体論を批判します。第2日目は、地上諸現象の原因を検討する内容、第3日目は、望遠鏡で見た天界現象で惑星の動きを説明します。第4日目は、潮汐現象について、潮の干満は地球が公転することによって説明できると説きます。そのやりとりが、日常の身近な現象を例にしているの

### リカレント教育

## 「大学の開放授業講座」を開講

### 3科目に5名のシニアが受講

国際学院埼玉短期大学は、埼玉県と提携し県内在住の「学ぶこと」に意欲のある55歳以上の方々を対象に、生活の充実や社会参加のきっかけづくりを目的に通常授業を公開する「大学の開放授業講座」（リカレント教育）を実施している。

本学のこの講座への取組は、平成27年度からと県内短期大学では最も早く、初年度に1科目（子ども理解）、翌年度に3科目（子ども理解、「保育・教育相談支援」、「臨床栄養学総論」）、そして3年目となる平成29年度は4科目（子ども理解、「臨床栄養学総論」）と「体育と健康」に各1名

増やす中で実施している。受講者は、本学学生が学ぶ通常授業に加わっての受講であることから各科目共若干名の定員枠となるが、本年度は「子ども理解」に3名、「臨床栄養学総論」に1名と「体育と健康」に各1名

保育の現場では常に子どもたちの明るい声と天使の笑顔に溢れていま。子ども一人ひとりの個性を大切に、伸びしろを最大限に引き出していけるような保育者になることを目指して、皆さんも2年間の学び大切に真剣に取

り組んでください。そして、その中で自分の特技を見つけ、保育現場で活かせるように特技を磨いて下さい。国際学院で学んだことを礎に地域社会での活躍をお祈り致しております。

本年度は、「大学の開放授業講座」として、埼玉県全体で21大学、230科目の授業が後期分として開放されているが、本学も生涯学習、特に高齢者の学びの推進に公開講座等と共にその一端を担っている。

となり、3科目に5名のシニアが在生と機会を並べて受講している。開設初年度から3年連続で授業科目「子ども理解」を担当する幼児保育学科の森下剛教授は、「シニアの皆さんは、どなたも学習意欲が高く、これまでのさまざまな分野での社会経験をベースとした質問をしてくださる。高校を卒業して本学に入学してきた学生たちにとっては、人生の先輩として、模範的な学習者として大変良い影響を与えていると思います。今後も担当する授業で是非とも受け入れていきたいと思っております」と語っていた。